群馬県藤岡市方言

群馬県方言区画図

【群馬県の方言区画】群馬県方言は、東京方言をふくむ関東方言に位置する。その下位区画では、東京方言とは一線を画し、関東の西北部方言に位置する。県内の区画は、明確に境界線を施して示されたことがないが、北部と西部の山間地域の方言（北・西部方言）、中部と西部の平坦地域の方言（中部方言）、埼玉県、栃木県、茨城県と接触する東南部の方言（東南部方言）の 3 つとする考え方が一般的である。（上野 1961、群馬県教育委員会 1987、古瀬 1997、中澤 1948、杉村 1984、1992）。

北・西部方言として区画するよりどころには、まず、文法形式では、「そうだねぇ」「あのねぇ」「暑いねぇ」の終助詞・間投助詞「ねぇ」に相当する「ムシ」や、「なぐるのだ」「行ったのだ」の準体助詞「の」相当の形式がゼロ形式、すなわち「ナグルダ」「イッタダ」となる点が上げられる。中部方言や東南部方言と対立しており、県内でも特に伝統的な方言色を残す。同様に、北・西部方言の語彙では「麦の穂先」を「ノギ」、「麦の穂先が体にさわって痛がゆい」を「ノギッポイ」と言い、中部方言や東南部方言の「ノゲ」「ノゲッポイ」と対立する点などがあげられる。なお、北・西部方言のうち、北部地域だけに共通する特色（「そんなことするとおこられるぞ」を「そんなことシルと」、「はずかしい」を「ショーシー」、「舌」を「ヘラ」など）が多い（大橋 1976a,b）。

東南部方言は、栃木県や茨城県の無型アクセント地域と接し、アクセントやイントネーションにおいて、北・西部方言や中部方言との違いが大きく、県民にも広く認識されている。

中部方言では、県内で最も方言使用の意識が低く「群馬には方言なんかナカンベー。（群馬には方言などなかろう）。」という表現が頻繁にきかれる。

【藤岡市方言について】県内区画のうち、中部方言に位置する。埼玉県北部地域と接した地域であり、お互いに、買い物や病院への通院といった生活圏となっている。ことばの面でも共通する特徴を持つ。たとえば、「そうだねぇ」「暑いねぇ」「昨日は寒かったねぇ」の終助詞・間投助詞「ねぇ」は、藤岡市方言では「ノー」である。藤岡市方言を含む中部方言では、「ネー」とともに「ノー」が広く分布し、その勢力は藤岡市と接する埼玉県までおよぶ。同様に「昔はたいへんだった」は、藤岡市方言では「昔はオーゴトダッタ（大事だった）」と表現される。埼玉県では「ヨーイジャーナカッタ（容易ではなかった）」という表現が主流であるが、藤岡市との接触域では「オーゴトダッタ」が用いられている（大橋 1976a,b）。

【表記について】文献から引用した用例は、原典の表記にしたがう。調査や筆者の内省によって得た用例は、具体的な音声にもとづいてカタカナ表記する。

特に、藤岡市方言には、ガ行鼻濁音がないといわれているが、音環境によってはあらわれることがある。しかし、破裂音あるいは摩擦音と、鼻濁音を区別せず「ガ、ギ、グ、ゲ、ゴ」/g/と表記する。

【調査概要】本稿の記述は、基本的に、藤岡市で生育しかつ居住する高年層話者（1941（昭和 16）年～1945（昭和 20）年生）への聞き取り調査と、同地域で生育した筆者（1969 年生）の内省にもとづく。用例のほとんどは、調査と内省にもとづくものだが、引用元の記載があるものは用例出典に示した文献による。

群馬県藤岡市方言の活用表

《動詞》

		多段型　書く	一段型　見る	来る	する
終止類	断定非過去	カク	ミル	クル	スル
	断定過去	カイタ	ミタ	キタ	シタ
	命令	カケ カキー カキナ カキナイ	ミロ ミロイ ミー ミナ ミナイ	コイ コー キナ キナイ	シロ シロイ シリー シナ シナイ
	禁止	カクナ カクナイ カカッサンナ カカットイー	ミルナ ミルナイ ミンナ ミナサンナ ミヤッサンナ ミラットイー	クルナ クルナイ クンナ キナサンナ キヤッサンナ クラットイー	スルナ スルナイ スンナ シナサンナ シヤッサンナ スラットイー
	意志・勧誘	カコ（ー） カクベ（ー）	ミヨ（ー） ミベ（ー） ミルベ（ー） ミンベ（ー）	キヨ（ー） コヨ（ー） キベ（ー） クベ（ー） クルベ（ー） クンベ（ー）	シヨ（ー） スベ（ー） スルベ（ー） スンベ（ー）
	推量	カクダロー カクダンベー	ミルダロー ミルダンベー	クルダロー クルダンベー	スルダロー スルダンベー
接続類	連体非過去	カク	ミル	クル	スル
	連体過去	カイタ	ミタ	キタ	シタ
	中止	カイテ	ミテ	キテ	シテ
	仮定	カケバ カキャー カイタラ	ミレバ ミリャー ミタラ	クレバ クリャー キタラ	スレバ スリャー シタラ
派生類	否定	カカネー	ミネー	キネー	シネー
	丁寧	カキマス	ミマス	キマス	シマス
	使役	カカセル カカス	ミサセル ミサス	キサセル キサス	サセル サス
	受身	カカレル	ミラレル	キラレル	サレル
	可能	カケル	ミラレル ミレル	コラレル コレル キラレル	《デキル》
	尊敬	カカレル	ミラレル	キラレル コラレル	サレル
	継続	カイテル	ミテル	キテル	シテル
	希望	カキテー	ミテー	キテー	シテー
	のだ	カクンダ	ミルンダ ミンダ	クルンダ クンダ	スルンダ スンダ

多段型動詞の基幹音便形

語幹末子音	語例		活用形例（過去形）	作り方
k	書く	kak·u	カイ-タ	k を i にする。「行く」ik·u は k を Q（促音）にし「イッ-タ」。
g	嗅ぐ	kag·u	カイ-ダ	g を i にする。-タが-ダになる。
s	出す	das·u	ダシ-タ	音便形をとらず、基幹イ段形を用いる。
t/c	立つ	tac·u	タッ-タ	t/c を Q（促音）にする。
n	死ぬ	sin·u	シン-ダ	n を N（撥音）にする。-タが-ダになる。
b	飛ぶ	tob·u	トン-ダ	b を N（撥音）にする。-タが-ダになる。
m	飲む	nom·u	ノン-ダ	m を N（撥音）にする。-タが-ダになる。
r	切る	kir·u	キッ-タ	r を Q（促音）にする。
w/ø	買う	ka(w)·u	カッ-タ	w を Q（促音）にする。

《形容詞・形容名詞述語・名詞述語》

		赤い	静か（だ）	学生［ガクセー］（だ）
終止類	断定非過去	アカイ アケー	シズカダ	学生ダ
	断定過去	アカカッタ	シズカダッタ	学生ダッタ
	推量	アカイダロー アケーダンベー アカカンベー	シズカダロー シズカダンベー	学生ダロー 学生ダンベー
接続類	連体非過去	アカイ アケー	シズカナ	学生デアル 《学生ノ》
	連体過去	アカカッタ	シズカダッタ	学生ダッタ
	中止	アカクテ アカクッテ	シズカデ	学生デ
	仮定	アカケレバ アカケリャー	シズカナラ シズカダラ	学生ナラ 学生ダラ
派生類	否定	アカクナイ アカクネー	シズカデネー シズカジャーナイ シズカジャーネー	学生デネー 学生ジャーナイ 学生ジャーネー
	なる	アカクナル	シズカニナル シズカンナル	学生ニナル 学生ンナル
	丁寧	アカイデス	シズカデス	学生デス
	のだ	アカインダ アケーンダ	シズカナンダ	学生ナンダ

1. 動詞の活用の特徴

(1)活用型と語類の対応

規則的な活用型として基幹多段型(以下「多段型」)と基幹一段型（以下「一段型」）がある。およそ、多段型には a 類（「書く」・「居る」・「死ぬ」類）動詞、一段型には b 類（「見る」・「起きる」・「開ける」類）動詞が所属する。

多段型の基幹にはア・イ・ウ・エ・オ段の 5 形、および、音便形がある。融合によってア段拗音となることもある。「カク」（書く）の場合、カカ-ネー（kak·a-neR）、カキー（kak·i-R）、カク（kak·u）、カケ (kak·e)、カコ (ー) (kak·o- (R))、カイ-タ (kai-ta)、カキャー (kak·ja-R) など。命令形にイ段形を用いたカキー（kak·i-R）、カキ-ナ（kak·i-na）、カキ-ナイ（kak·i-nai）、禁止にア段形を用いたカカ-ッサンナ（kak·a-QsaNna）、カカ-ットイー（kak·a-QtoiR）がある点で特徴的である。また、語幹末子音には k（カ行）、g（ガ行）、s（サ行）、t（タ行）、n（ナ行）、b

（バ行）、m（マ行）、r（ラ行）、w（ワ行）がある。

一段型には、ミ-ル（mi-ru）、オキ-ル（oki-ru）など基幹がイ段の動詞と、ネ-ル(ne-ru)、アケ-ル(ake-ru)など基幹がエ段の動詞がある。一段型の動詞は、「ミル」を例にすると、断定非過去形ミ-ル（mi-ru）、仮定形ミ-レバ（mi-reba）、ミ-リャー（mi-rjaR）、受身形・尊敬形ミ-ラレル（mi-rareru）、可能形ミ-レル（mi-reru）のほか、禁止形ミラ-ットイー(mi-raQtoiR)でもrで始まる接辞が付き、多段型のr語幹動詞に対応した形となる。命令ミ-ー(mi-R)、ミ-ナ(mi-na)、ミ-ナイ(mi-nai)や、禁止ミ-ナサンナ(mi-nasaNna)、ミ-ヤッサンナ（mi-jaQsaNna）は共通語にはない特徴的な形である。

不規則な活用をする動詞に「クル」（来る）と「スル」（為る）がある。ともに一段型に近い活用をするが、「クル」は、キ-タ（k·i-ta）、ク-ル（k·u-ru）、コイ（k·o-i）などのように、基幹が「キ」「ク」「コ」の3段に、「スル」は、サ-レル(s·a-reru)、シ-タ(s·i-ta)、ス-ル(s·u-ru)などのように、基幹が「サ」「シ」「ス」の3段にわたる。「クル」は、否定形キ-ネー(k·i-neR)、使役形キ-サセル（k·i-saseru）、キ-サス（k·i-sasu）、受身形・可能形キ-ラレル（k·i-rareru）と、共通語では基幹「コ」が現れる箇所で「キ」が用いられる。すなわち、基幹がイ段に収束する方向への変化、いわゆる上一段化がすすんでいる。一方、禁止形クラットイー(k·u-raQtoiR)は、r語幹化した形と言える。「スル」も、命令形シ-リー(s·i-riR)、シ-ナイ(s·i-nai)、シ-ナサンナ（s·i-nasaNna）、シ-ヤッサンナ（s·i-jaQsaNna)」などイ段を用いた形が多く、また、禁止形スラ-ットイー（s·u-raQtoiR）はr語幹化した形と言える。

(2)各活用形の特徴

〈断定非過去形〉

断定非過去形は連体非過去形と同形である。すなわち、カク（kak·u）、ミル（mi-ru）、クル（k·u-ru）、スル（s·u-ru）である。

・ヒロシマニ　イル　イトコニ　テガミー　カク。（広島にいる従兄弟に手紙を書く。）

・ジューゴヤノ　ツキー　ミル。（十五夜の月を見る。）

・ツイタチニワ　イツモ　コーホーガ　クル。（一日にはいつも広報が来る。）

・オカイコー　スル。（養蚕をする。）

〈断定過去形〉

断定過去形は連体過去形と同形である。すなわち、カイ-タ（kai-ta）、ミ-タ（mi-ta）、キ-タ（k·i-ta）、シ-タ（s·i-ta）である。

・ユンベ　マゴニ　テガミー　カイタ。（昨日の夜は、孫に手紙を書いた。）

・ユンベワ　ジューゴヤノ　ツキー　ミタ。（昨日の夜は、十五夜の月を見た。）

・ナツヤスミニ　ノーギョーリューガクセーガキタ。（夏休みに農業留学生が来た。）

・コノ　ウチジャー　ムカシワ　ヨーサンオシタ。（この家では、昔は養蚕をした。）

〈命令形〉

それぞれの動詞において共通語と同じ活用形で実現されるが、それとは異なる活用形も現れる。

多段型動詞ではカケ（kak·e）など基幹エ段形の他に、基幹イ段形を用いたカキ-ー（kak·i-R）、カキ-ナ（kak·i-na）、カキ-ナイ（kak·i-nai）が現れる。一段型動詞ではミロ（mi-ro）など「基幹-ロ」の他に、ミ-ー（mi-R）、ミ-ナ（mi-na）、ミ-ナイ（mi-nai）が現れる。「来る」ではコイ（k·o-i）、コ-ー（k·o-R）の他に、キ-ナ（k·i-na）、キ-ナイ（k·i-nai）が現れる。「する」ではシロ（s·i-ro）の他にシ-ナ（s·i-na）、シ-ナイ（s·i-nai）が現れる。

・(幼い孫に向かって)エー　カクンダラ　カレンダーノ　ウラニ　カキー。（絵を書くのなら、カレンダーの裏にかきなさい。）

・カミガ　ネーンカイ、ジャー　ココニ　カキナイ。（紙がないのですか、では、ここに書きなさい。）

・コレー　ミロイ。（これを見ろ。）

・コレー　ミー。ダカラ　マチガッチャ　イネーッテ　ユッタンダ。（これを見ろ。だから間違ってはいないと言ったのだ。）

・コレ　ミナイ、ヨク　ワカルヨーニ　カイテアルカラ。（これ見なさい、よくわかるように書いてあるから。）

・こっちいコオ。（こっちに来い。）[群馬 P118]

〈禁止形〉

①「断定非過去形-ナ・ナイ」のほか、②「尊敬の

断定非過去形-ナ」に由来する形がある。多段型動詞では、①カク-ナ（kak·u-na）、カク-ナイ（kak·u-nai）、②カカ-ッサンナ（kak·a-QsaNna）など「ア段形-ッサンナ」。一段型動詞では、①ミル-ナ（mi-ru-na）、ミル-ナイ（mi-ru-nai）、ミン-ナ（miN-na）、②ミ-ナサンナ（mi-nasaNna）、ミ-ヤッサンナ（mi-jaQsaNna）など「基幹-ナサンナ・ヤッサンナ」。「来る」では、①クル-ナ（k·u-r·u-na）、クル-ナイ（k·u-ru-nai）、クン-ナ（k·uN-na）、②イ段形キ-ナサンナ（ki-nasaNna）、キ-ヤッサンナ（ki-jaQsaNna）。「する」では、①スル-ナ（s·u-ru-na）、スル-ナイ（s·u-ru-nai）、スン-ナ（s·uN-na）、②イ段形シ-ナサンナ（s·i-nasaNna）、シヤッサンナ（s·i-jaQsaNna）。

さらに、③カカ-ットイー（kak·a-QtoiR）、ミ-ラットイー（mi-raQtoiR）、ク-ラットイー（k·u-raQtoiR）、ス-ラットイー（s·u-raQtoiR）などという形式の、微妙なニュアンスの禁止表現がある。多段型動詞では、ア段形に接辞-ットイーを後接する。一段型動詞と「来る」「する」は、それぞれ基幹に-ラットイーが続く形式をとっている。多段型 r 語幹の動詞に対応した形であり、r 語幹化をすすめていると言える。

・ソンナ　トコイ　ジナンカ　カクナイ。（そのようなところに字などを書いてはいけないよ。）
・ヨセヨ、ソンナトコイ　カカッサンナヨ。（やめろよ、そのようなところに書いてはいけないよ。）
・ソンナトコイ　カカットイー。（そのようなところに書かなくていい）
・ジワ　クレートコデ　ミナサンナ。（字は暗いところで見てはいけない。）
・ゼッタイ　ミヤッサンナヨ。（絶対見てはいけないよ。）
・コンナ　オソクニ　テレビナンカ　ミラットイー。（このように遅い時間にテレビなど見なくていい。）
・モンク　ユーンダラ　クルナイ。（文句を言うのなら来るな。）
・アブネーカラ　コッチー　クンナヨ。（危ないからこっちに来るなよ。）
・こっちいキヤッサンナ。（こっちへ来てはいけない。）［群馬 P118］
・ソンナニ　ヤダラ　クラットイー。（そんなにいやならば来なくていい。）
・ケンカナンカ　スンナ。（喧嘩などするな。）
・ソンナコト　シヤッサンナ。（そんなことしてはいけない。）
・モンク　ユーンダラ　スラットイー。（文句を言うのならばしなくていい。）

〈意志形・勧誘形〉

意志形は勧誘形と同形である。

多段型動詞ではカコー（kak·oR）などオ段長音形の他に、カク=ベー（kak·u=beR）という、断定非過去形に「ベー」が後接する形がある。

一段型動詞では、ミ-ヨー（mi-joR）など「基幹-ヨー」の他に、ミル=ベー（mi-ru=beR）、ミン=ベー（miN=beR）という断定非過去形とその音便形に「ベー」が後接する形と、ミ=ベー（mi-beR）という基幹に「ベー」が後接する形がある。「来る」では、コ-ヨー（k·o-joR）という「オ段形-ヨー」の他に、クル=ベー（k·u-ru=beR）、クン-ベー（k·uN-beR）という断定非過去形形とその音便形に「ベー」が後接する形と、キ-ヨー（k·i-joR）、キ-ベー（k·i-beR）というイ段形に「ヨー」「ベー」が後接する形と、ク=ベー（k·u-beR）というウ段形に「ベー」が後接する形がある。「する」では、シ-ヨー（s·i-joR）という「イ段形-ヨー」の他に、ス-ベー（s·u-beR）というウ段形に「ベー」が後接する形と、スル=ベー（s·u-ru=beR）、スン-ベー（s·uN-beR）という断定非過去形とその音便形に「ベー」が後接する形がある。

・アシタワ　カナラズ　ネンガジョーオ　カクベー。（明日は必ず年賀状を書こう。）
・イッショニ　カクベー。（一緒に書こう。）
・スモーデモ　ミベー。（相撲でも見よう。）
・オモシロカッタカラ　アシタモ　キヨー。（面白かったから明日も来よう。）
・ライネンモ　マタ　クンベー。（来年もまた来よう。）
・アサ　ハヤクニ　スベー。（朝早くにしよう。）
・マタ　イッショニ　スンベーノー。（また一緒にしようね。）

〈推量形〉

断定非過去形に「ダロー」「ダンベー」が後接する。カク=ダロー（kak·u=daroR）、カク=ダンベー（kak·u

＝daNbeR)。ミル=ダロー（mi-ru=daroR)、ミル=ダンベー(mi-ru=daNbeR)。クル=ダロー(k·u-ru=daroR)、クル=ダンベー（k·u-ru=daNbeR)。スル=ダロー（s·u-ru=daroR)、スル=ダンベー（s·u-ru=daNbeR)。

・アシタワ　イヨイヨ　カクダンベー。(明日はいよいよ書くだろう。)
・ココニ　オイトキャー　ミルダンベー。(ここに置いておけば見るだろう。)
・クルッテ　ユッテタカラ　イマチット　スリャー　クルダンベー。(来ると言っていたから今少しすれば来るだろう。)
・そのうちに来るだんべえ。(そのうちに来るだろう。)［群馬 P39］
・ヤツガ　スルダンベー。(奴がするだろう。)
・掃除はあの人がするだんべえ。(掃除はあの人がするだろう。)［群馬 P39］

〈連体非過去形〉

上述のとおり、連体非過去形は断定非過去形と同形である。

・テガミナンザー　カク　コターネ。(手紙などは書くことはない。)
・シンブン　ミル　トキワ　メガネガ　イルガテレビ　ミル　トキワ　イラネー。(新聞を見るときは眼鏡が必要だが、テレビを見る時はいらない。)
・ココデ　マッテリャー　クル　ワケダガ　チットモキネー。(ここで待っていれば、来るわけだが、ちっとも来ない。)
・マゴガ　クリャー　シゴト　スル　ワケニワイガネー。(孫がくれば仕事をするわけにはいなかい。)

〈連体過去形〉

上述のとおり、連体過去形は断定過去形と同形である。

・ハンチョーサンガ　クチダケジャーナク　カイタモンモ　オイテッテクレタ。(班長さんが、口で話すだけではなく、書いたものも置いていってくれた。)
・ミタ　コトガ　ネー。(見たことがない。)
・ココイワ　キタ　コトガ　ナカッタ、ハジメテ　キタ。(ここには来たことがなかった、はじめて来た。)
・コノ　ヘンジャー　ムカシ　ヨーサンオ　シタ　ウチガ　イクケンモ　アル。(この辺りでは、昔、養蚕に取り組んだ家が何軒もある。)

〈中止形〉

中止形は「テ」によって表される。「テ」は、多段型動詞では基幹音便形に、一段型動詞では基幹に、「来る」ではイ段形「キ」、「する」ではイ段形「シ」にそれぞれ接続する。カイテ(kai-te)、ミテ(mi-te)、キテ（k·i-te)、シテ（s·i-te)。

・ココイ　ナマエオ　カイテ、ポストニ　ダシトイトクレ。(ここに名前を書いて、ポストに出しておいてください。)
・ヨルノ　ニュースオ　ミテ、ネタ。(夜のニュースを見て、寝た。)
・コッチー　キテ、スワリナ。(こっちへ来て、座りなさい。)
・アレシテ、コレシテ、ナッカラ　イソガシーヤ。(あれをして、これをしてと、とても忙しいよ。)

〈仮定形〉

①多段型動詞の基幹エ段形に「バ」、一段型動詞・「来る」「する」の基幹に「レバ」を後接した形、②多段型動詞の基幹音便形、一段型動詞の基幹、「来る」「する」のイ段形に「タラ」を後接した形がある。その他に、①が音便化した、カキャー（kak·jaR)、ミリャー(mi-rjaR)、クリャー(k·u-rjaR)、スリャー（s·u-rjaR）がある。

・カキャーヨカンベ。(書けばよかろう。)
・ソノ　テオ　ミリャー　オーゴト　シタンガワカル。(その手を見れば大事したのがわかる。)
・アシタ　クリャー、ハー　オワッテルダンベ。(明日来れば、もう終わっているだろう。)
・来りゃあ困る。(来れば困る。)［群馬 P114］
・ソンナニ　キニ　ナルンダラ　アンタガ　スリャー　イイガネ。(そのように気になるのならあなたがすればいいよ。)

〈否定形〉

それぞれの基幹に「ネー」を後接した形をとる。カカ-ネー（kak·a-neR)、ミ-ネー（mi-neR)、コ-ネー（k·o-neR)・キ-ネー（k·i-neR)、シ-ネー（s·i-neR）となる。この形は形容詞に準じた活用をする。

・オラー　ソンナトコイワ　カカネー。（俺はそのようなところには書かない。）
・オラー　ナマエオ　カカナカッタデ。（俺は名前を書かなかったよ。）
・サイキン　ヤツオ　チットモ　ミネー。（最近、奴を少しも見ない。）
・キョーワ　ニュースオ　ミナカッタ。（今日はニュースを見なかった。）
・マッテリャー　ナカナカ　キネーナー。（待っていれば、なかなか来ないなあ。）
・キョーワ　シンブンガ　ヤスミデ　キナカッタ。（今日は新聞が休みで来なかった。）
・タノンダッテ　チットモ　シネー、ドシタンダガナ。（頼んでも、少しもしない、どうしたのだか。）
・イモートトワ　ケンカナンカ　シナカッタ。（妹とは喧嘩などしなかった。）

〈丁寧形〉

多段型動詞の基幹イ段形、一段型動詞の基幹、「来る」は基幹イ段形「キ」、「する」は基幹イ段形「シ」に、丁寧の接辞「マス」を後接する形をとる。カキ-マス（kak·i-masu）、ミ-マス（mi-masu）、キマス（k·i-masu）、シ-マス（s·i-masu）となる。

・ワタシガ　カキマス。（私が書きます。）
・アサワ　マインチ　テレビデ　ニュースオ　ミマス。（朝は毎日、テレビでニュースを見ます。）
・オナガガ　ミオ　クイニ　キマス。（鳥の尾長が実を食べに来ます。）
・マインチ　ミシミテ　シゴトー　シマス。（毎日、一所懸命に仕事をします。）

〈使役形〉

多段型動詞は、基幹ア段形に「セル」および「ス」が後接する形をとる。カカ-セル（kak·a-seru）、カカス（kak·a-su）。一段型動詞は基幹に「サセル」「サス」が後接する形をとる。ミ-サセル（mi-saseru）、ミセル（mi-seru）。「来る」は基幹イ段形に「サセル」「サス」が後接する形をとり、上一段化がすすんでいる。キ-サセル（k·i-saseru）、キ-サス（k·i-sasu）。「する」は基幹ア段形に「セル」「ス」を後接する形をとる。サ-セル（s·a-seru）、サ-ス（s·a-su）。

・ナンデモ　アシニ　カカス。（なんでも私に書かせる。）
・コドモニ　ミサス。（子どもに見させる。）
・コンナ　トコイ　キサセル　ワケジャ　ナカッタ。（こんなところに来させるわけではなかった。）
・アシニ　サスンカイ。（私にさせるのかい。）

〈受身形〉

多段型動詞は基幹ア段形に「レル」、一段型動詞は基幹に「ラレル」、「来る」は基幹イ段形に「ラレル」、「する」は基幹ア段形に「レル」が後接した形をとる。カカ-レル（kak·a-reru）、ミラ-レル（mi-rareru）、キ-ラレル（k·i-rareru）、サ-レル（s·a-reru）。

・コンナ　トコイ　カカレチャー　ヨワッタナー。（このようなところに書かれては困ったなあ。）
・ヘンナ　トコ　ミラレチャッタ。（変なところを見られてしまった。）
・デガケニ　ヒトニ　キラレルト　イソガシー。（出発する矢先に人に来られると忙しい。）
・ソレー　サレチャー　ヨワッタナー。（それをされては困ったなあ。）

〈可能形〉

多段型動詞は基幹エ段形に「ル」が後接する形、一段型動詞は基幹に「レル」が後接する形、「来る」は基幹オ段形に「レル」が後接する形をもちいる。カケ-ル（kak·e-ru）、ミレ-ル（mi-reru）、コレ-ル（k·o-reru）。一段型動詞は、基幹に「ラレル」を後接する形、「来る」オ段形・イ段形に「ラレル」の後接する形ももちいる。ミ-ラレル（mi-rareru）、コ-ラレル（k·o-rareru）、キ-ラレル（k·i-rareru）。

・コノ　ショルイオ　アシタマデニ　カケルカイ。（この書類を明日までに書くことができるか。）
・メガネナシデモ　シンブンノ　ジガ　ミラレルカイ。（眼鏡無しでも新聞の字が見られるか。）
　アタシワ　ミレルヨ。（私は見られるよ。）
・アタシワ　コレルケド　オトーサンワ　ダメダト　オモーヨ。（私は来られるけれど、お父さんは無理だと思うよ。）
・アシタワ　キラレルカイ。（明日は来られるか。）

〈尊敬形〉

多段型動詞は基幹ア段形に「レル」が後接する。一段型動詞は基幹に「ラレル」が後接する。「来る」は基幹イ段形・オ段形に「ラレル」が後接する。「する」は基幹ア段形に「レル」が後接する。しかし、これらは共通語的であって、日常的な会話の中で活発に使用されるわけではない。

〈継続形〉

「ている」に由来する「テル」を用いる。多段型動詞は基幹音便形に、一段型動詞は基幹に、「来る」は基幹イ段形に、「する」は基幹イ段形に、それぞれ「テル」が後接する。

・キノーッカラ　カイテルケンド　チットモオワラネー。(昨日から書いているけれど、少しも終わらない。)
・ズット　ミテルト　メガ　マワール。(ずっと見ていると目が回る。)
・イマ　キテル　ドーチューダト　オモウケドデンワ　シテミルカネー。(今、来ている道中だと思うけれど、電話をしてみるかね。)
・ソンナ　トコデ　ナニ　シテルンダイ。(そのようなところで何をしているのだ。)

〈希望形〉

多段型動詞は基幹イ段形に、一段型動詞は基幹に、「来る」は基幹イ段形に、「する」基幹イ段形に、それぞれ「テー」が後接する。「テー」は希望を表す「たい」で、連母音の同化現象が生じた形式である。この形は、形容詞に準じた活用をする。

・コトシノ　ネンガジョーワ　フデデ　カキテー。(今年の年賀状は筆で書きたい。)
・ソンナニ　カキタケリャー　カキナイノ。(そんなに書きたければ、書きなさいね。)
・コトシワ　ハツヒノデオ　ミテー。(今年は初日の出を見たい。)
・アンタモ　ミタカンベ。(あなたも見たいだろう。)
・ライネンモ　マタ　キテーガ、アシガ　イタクッテノー。(来年もまた来たいが、足が痛くてね。)
・アンタモ　キタケリャー　キナイノ。(あなたも来たければ来なさいね。)
・ハナシー　シテタラ　ナツカシクッテ　オカイコモ　マタ　シテーヨーダ。(話をしていたら、懐かしくて、養蚕もまたしたいようだ。)

〈のだ形〉

連体非過去形に「ンダ」が後接する。連体形の末尾が「ル」となる動詞、すなわち多段型 r 語幹、一段型、「来る」「する」では「ル」が脱落した「キンダ(切るんだ)」「ミンダ(見るんだ)」などの形もある。

・ネンガジョーワ　フデデ　カクンダ。(年賀状は筆で書くのだ。)
・タカサキー　イッテ　エーガオ　ミンダ。(高崎に行って、映画を見るのだ。)
・オソクッテモ　ジュージニワ　クンダ。(遅くても 10 時には来るのだ。)
・ノーカワ　オショーガツデモ　シゴトー　スンダ。(農家はお正月でも仕事をするのだ。)

2. 形容詞・形容名詞述語・名詞述語の活用の特徴

【形容詞】

形容詞の活用型は、1 つである。断定過去・連体過去および推量形において、動詞に準じた活用形が現れる。

〈断定非過去形〉

語幹に「イ」を付す形式と、さらに語幹末母音と「イ」が融合した形式をもつ。すなわち、「赤い」はアカイ(aka-i)、アケー(akeR)、「寒い」はサムイ(samu-i)、サミー(samiR)、「いぶい(煙たい)」はイブイ(ibu-i)、イビー(ibiR)となる。

・イビー　イビー。バカニ　イビーケド、ドッカデ　ヒデモ　モシタンダンベカ。(煙い、煙い。とても煙いけれど、どこかで火でも燃したのだろうか。)

〈断定過去形〉

語幹に、動詞の音便基幹に準じた「カッ」、さらに「タ」を後接した形式をもつ。アカ-カッ-タ(aka-kaQ-ta)、サム-カッ-タ(samu-kaQ-ta)、イブ-カッ-タ(ibu-kaQ-ta)。

・ユンベノ　ツキワ　アカカッタ。(夕べの月は赤かった。)

〈推量形〉

断定非過去形に「ダロー」と「ダンベー」が後接する。アケー=ダロー(akeR=daroR)、アケー=ダンベー(akeR=daNbeR)。また、動詞の音便基幹に準じ

た「カン」に「ベー」を後接した形式ももつ。アカ-カン-ベー（aka-kaNbeR）。この形式は、「語幹＋カル-ベシ」に由来する。

・まだ出かけるのはハエエだんべえ。（まだ出かけるの早いだろう。）［群馬 P40］

・ソンナニ　ウスギジャー　サムカンベー。（そのように薄着では寒かろう。）

〈連体非過去形〉

断定非過去形と同形である。

・コノ　キューコンワ　アケー　ハナガ　サク。（この球根は赤い花が咲く。）

〈連体過去形〉

断定過去形と同形である。

〈中止形〉

語幹に「クテ」「クッテ」を後接した形式で表現される。アカ-ク-テ（aka-ku-te）、アカ-クッ-テ（aka-kuQ-te）。

・ソトニ　イタラ　サブクッテ、サブクッテ、フルエテタ。（外にいたら、寒くて、寒くて震えていた。）

・ヒモシワ　イブクッテ　カナワネー。（火を燃すことは煙くてかなわない。）

〈仮定形〉

語幹に「ケレバ」「ケリャー」を後接した形式で表現される。「ケリャー」は「語幹＋ケレ-バ」の音便形である。アカ-ケレ-バ（aka-kere-ba）、アカケ-リャー（aka-kerjaR）。

・ヘッタマデ　アカケリャー　アマクッテ　ウンマイ。（蒂まだ赤ければ甘くて美味しい。）

〈否定形〉

語幹に「ク」を付し、さらに「ナイ」「ネー」を後接した形式で表現される。アカ-ク=ナイ（aka-ku=nai）、アカ-ク=ネー（aka-ku=neR）。

形容詞に準じた活用をし、例えば否定過去形ではアカ-ク-ナ-カッ-タ（aka-ku=na-kaQ-ta）、なる形ではアカ-ク=ナク=ナル（aka-ku=na-ku=naru）となる。

・マダ　アカクネーカラ　モイジャ　ダメダ。（まだ赤くないから捥いではだめだ。）

〈なる形〉

語幹に「ク」を付し、さらに「ナル」を後接した形式をもつ。アカ-ク=ナル（aka-ku=naru）。

・イチゴワ　アッタカクナリャー　アカクナル。（苺は暖かくなれば赤くなる。）

〈丁寧形〉

断定非過去形に、「デス」を後接する。アカ-イ=デス（aka-i=desu）。「デス」は・断定過去形・否定形にも付きうる。

・コノ　フユワ　イチダント　サムイデス。（この冬は一段と寒いです。）

・ドコデ　ヒオ　モシタンダガナ　バカニ　イブイデス。（どこで火を燃したのだか、とても煙たいです。）

〈のだ形〉

連体非過去形に、ンダを後接する。アケーンダ（akeR=N=da）、あるいは、短音化してアケ=ン=ダ（ake=N=da）となる。

・ナンダカ　サミーンダヨ。（なんだか寒いのだよ。）

・リンゴワ　アケンダヨ。（林檎は赤いのだよ。）

【形容名詞述語・名詞述語】

形容名詞述語と名詞述語はほぼ同様の活用をする。

〈断定非過去形〉

形容名詞述語、名詞述語とも、「ダ」を後接する。シズカ=ダ（sizuka=da）、ガクセー=ダ（gakuseR=da）。

・いっちゃあみねえが、だいじょぶげだ。（行ってはみないが大丈夫そうだ。）［群馬 P114］

〈断定過去形〉

形容名詞述語、名詞述語とも、「ダッタ」を後接する。シズカ=ダッ-タ（sizuka=daQ-ta）、ガクセー=ダッ-タ（gakuseR=daQ-ta）。

・オクレテ　イッテミタラ　ハー　ミンナ　ケーッタアトデ　シズカダッタ。（遅れて行ってみたら、もう皆帰った後で静かだった。）

〈推量形〉

形容名詞、名詞に「ダロー」「ダンベー」が後接する。シズカ=ダロー（sizuka=dar·oR）、シズカ=ダ-ン=ベー（sizuka=da-N=beR）、ガクセー=ダロー（gakuseR=dar·oR）、ガクセー=ダ-ン=ベー（gakuseR=da-N=beR）。

・あの人がいちばんキレエだんべえ。（あの人が一番綺麗だろう。）［群馬 P40］

・明日は雨だんべえ。（明日は雨だろう。）［群馬 P38］

・それは病気のせいだんべえ。(それは病気のせいだろう。)［群馬 P39］

〈連体非過去形〉

形容名詞述語の連体非過去形は、「ナ」または「デアル」、名詞述語の連体非過去形は「デアル」または「ノ」を後接する。シズカ=ナ（sizuka=na)、シズカ=デ=アル（sizuka=de=aru）、ガクセイ=デ=アル（gakuseR=de=aru)、ガクセー=ノ（gakuseR=no)。

・ハー　イー　トシン　ナルンダカラ、ガクセーデアル　ハズガ　ネー。(もういい年齢になるのだから、学生であるはずがない。)

・ガクセーノ　ハズガネー。(学生のはずがない。)

〈連体過去形〉

断定過去形と同形である。

・コノ　アタリワ　マインチ　シズカダッタコター　ネーンダガナー、イマジャーナー。(この辺りは、毎日静かだったことはないのだがなあ、今ではねぇ。)

・オマツリノ　トージツンナッテ　アメダッタトキニャー　イツモ　ドーシテタンダンベカ。(お祭りの当日になって雨だったときには、いつもどうしてたのだろうか。)

〈中止形〉

形容名詞、名詞に「デ」を後接する。シズガ=デ(sizuka=de)、ガクセー=デ（gakuseR=de)。

・アッチワ　トーッテモ　シズカデ、セキースルンモ　エンリョシテタ。(あっちは、とても静かで、咳をするのも遠慮していた。)

・アントキワ　マダ　ガクセーデ　ナンノ　チカラニモ　ナレナカッタ。(あの時はまだ学生で、何の力にもなれなかった。)

〈仮定形〉

形容名詞、名詞に「ナラ」または「ダラ」を後接した形式で表現する。シズカ=ナラ（sizuka=nara)、シズカ=ダラ（sizuka=dara）。ガクセー=ナラ(gakuseR=nara)、ガクセー=ダラ（gakuseR=dara)。

・カゼガ　ナクッテ　シズカダラ　イーガナー。(風がなくて静かならばいいのだがなあ。)

〈否定形〉

形容名詞、名詞に「デネー」「ジャーナイ」「ジャーネー」を後接した形式で表現される。シズカ=デ=ネー（sizuka=de=neR）、シズカ=ジャ=ネー（sizuka=zja=neR）、ガクセー=デ=ネー（gakuseR=de=neR）、ガクセー=ジャ=ネー(gakuseR=zja=neR)。

なお、この形は、形容詞に準じた活用をする。例えば、シズカ=デ=ナカッタ（sizuka=de=na-kaQ-ta)、シズカ=ジャ=ナ-カッ-タ（sizuka=zja=na-kaQ-ta)、ガクセー=デ=ナカッタ（gakuseR=de=na-kaQ-ta、ガクセー=ジャ=ナカッ-タ（gakuseR=zja=na-kaQ-ta)、。

・アソコンチノ　イヌワ　チットモ　シズカジャーネー。(あそこの家の犬は、少しも静かではない。)

・ソノ　ハナシワ　オダヤカデネーナ。(その話は穏やかではないな。)

・アントキワ　ハー　ガクセーデナカッタンベ。(あのときは、もう、学生ではなかったろう。)

〈なる形〉

形容名詞、名詞に「ニ」を付し、さらに「ナル」を後接した形式で表現される。「ニ」は撥音便形「ン」になることがある。シズカ=ニ=ナル(sizuka=ni=naru)、ガクセー=ニ=ナル（gakuseR=ni=naru)。

・ハー　マゴワ　ショーガクセーンナルカイ。(もう孫は小学生になるかい。)

〈丁寧形〉

形容名詞、名詞に「デス」を後接して表現する。シズカ=デス（sizuka=desu）、ガクセー=デス(gakuseR=desu)。

・ココイラワ　シズカデス　ネ。イーデスネ。(このあたりは静かですね。いいですね。)

・マゴワ　コノ　ハル　ガクセーデス。(孫はこの春、学生です。)

〈のだ形〉

形容名詞、名詞に「ナンダ」を後接する形式で表現される。シズカ=ナ=ン=ダ（sizuka=na=N=da)、ガクセー=ナ=ン=ダ（gakuseR=na=N=da)。

・マゴワ　マダ　ショーガクセーナンダヨ。(孫はまだ小学生なのだよ。)

用例出典

群馬：金井昭（1994)『群馬の方言－南西部編（藤岡近辺)』五輪書房

参考文献

上野勇（1961）「7 群馬・埼玉」東条操監修『方言学講座第 2 巻　東部方言』東京堂
大橋勝男（1974）『関東地方域方言事象分布地図　第一巻　音声篇』桜楓社
大橋勝男（1976a）『関東地方域方言事象分布地図　第二巻　表現法篇』桜楓社
大橋勝男（1976b）『関東地方域方言事象分布地図　第三巻　語彙篇』桜楓社
群馬県教育委員会編（1987）『群馬の方言』群馬県教育委員会
古瀬順一（1997）「Ⅰ総論」平山輝男編『日本のことばシリーズ 10　群馬県のことば』明治書院
杉村孝夫（1984）「群馬県の方言」『講座方言学 5　関東地方の方言』国書刊行会
杉村孝夫（1992）「群馬県方言」平山輝男編『現代日本語方言大辞典　第 1 巻』明治書院
中澤政雄（1948）「群馬方言概説」中澤政雄編『季刊国語 昭和 22 年冬季号』群馬国語文化研究所

（新井小枝子）